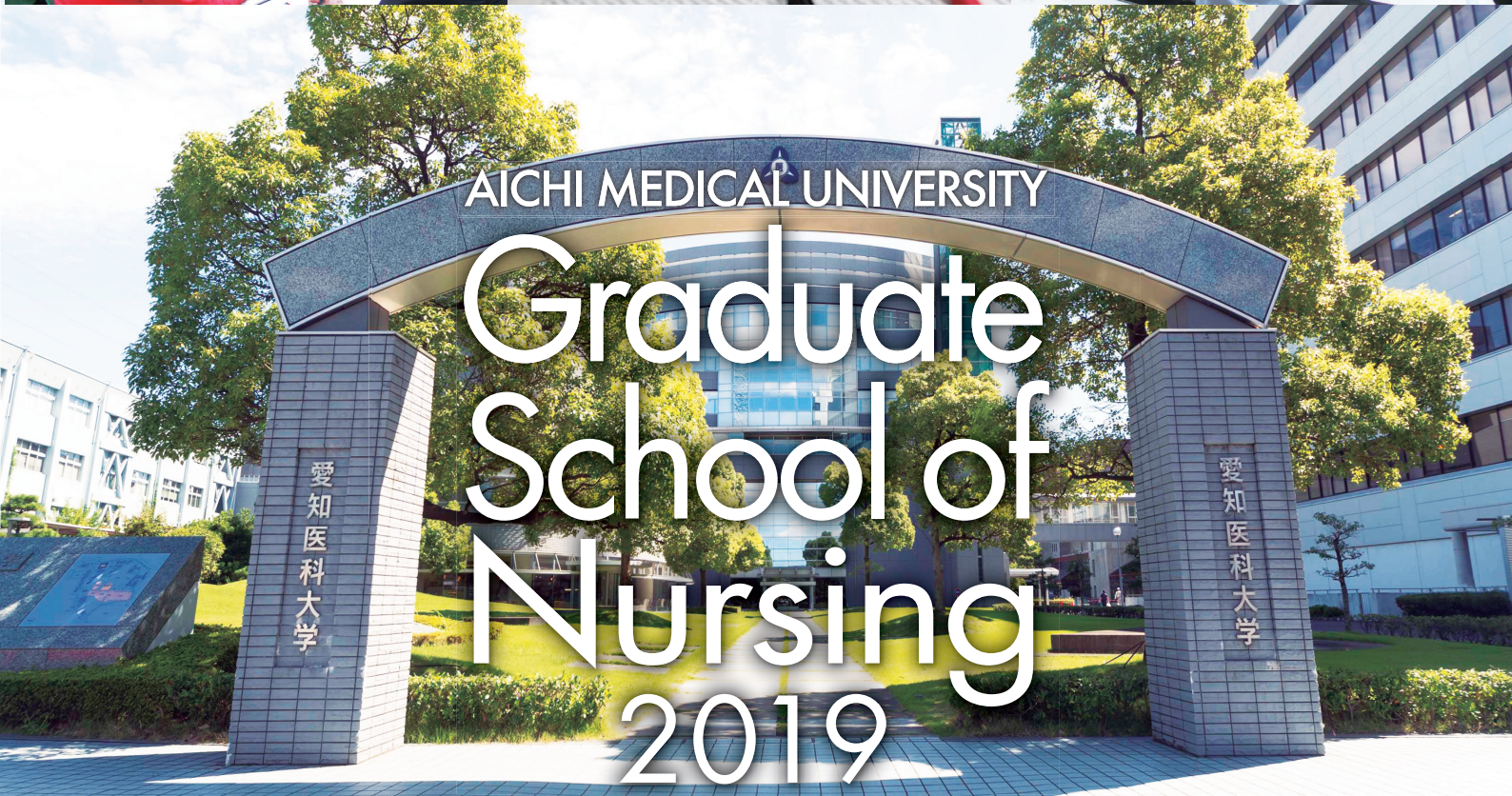




愛知医科大学大学院  
**看護学研究科**

修士課程



## 国内外の大学との交流

### ● 国際性

ケース・ウェスタン・リザーブ大学(米国)、オウル大学(フィンランド)及びマハサラカム大学(タイ王国)との協定締結により、質の高い看護実践並びに国際性を培うカリキュラムを配置しています。特に、臨床実践看護学領域では、隔年で、ケース・ウェスタン・リザーブ大学の教員を招聘して短期研修による講義・演習を開催しています。

### ● 国内における交流

感染看護学領域では、他の看護系大学大学院との協力などによる講義、演習を行っています。

## 大学院生、修了生からのメッセージ

### Senior Message

#### 経験や考えを言語化して伝えるために



第1学年

感染看護学領域  
高度実践看護師  
(専門看護師[CNS])コース

加藤 千景さん

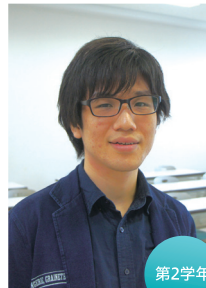
私は自分が実践してきた感染対策が、その臨床現場にとって適切であったかどうかということを常に疑問に感じていました。また、自分が意図することを明確に伝達するということの難しさも感じていました。自分の考えを明文化して伝えるということは感染対策の実践だけでなく、日ごろの看護を実践するうえでも大切であると思っており、大学院で学びたいと思い進学を決意しました。

入学前に科目等履修生制度を利用し、自分が実践してきた看護を振り返り、客観的な視点を持ち物事を捉えていくことを学びました。

進学後はさらに学びを深め臨床現場で学んだことを実践できるようにしたいと考えています。

### Senior Message

#### 学生同士の交流や講義を通して、課題の克服を目指す



第2学年

精神看護学領域  
修士論文コース

荒木 清吾さん

私は看護師として働いている間に疑問に感じたことを振り返る機会を作り、自分の行っている看護を見直していきたいと考え、大学院への進学を決めました。入学後は看護実践の振り返りとともに、物事を言語化する能力や論理的思考力の不足という自己の課題に気づくことができました。今は学生同士の交流や講義を通して、課題の克服に努めています。

仕事との両立では、職場の上司や同僚に協力してもらうことは多いです。大学院で学んだことを看護ケアに反映させていくことで、職場へフィードバックしていきたいと考えています。今後は学んだことを活かし、実践の中で考え、患者に最高のアウトカムを提供できるように看護を目指していきたいです。

### OB Message

#### 診療看護師として、医療の質の向上に貢献していきたい



2017年度  
修了生

クリティカルケア看護学領域  
高度実践看護師  
(診療看護師)コース

津下 和貴子さん

看護師としての日々の仕事の中で、このまま時を過ごしてよいのかという疑問を持ち、また学生時代から大学院に行きたいという気持ちもありましたので、進学を決意しました。

入学後、高度実践看護師(診療看護師)コースは、医師と同様の知識が必要となるため、解剖生理学や薬理学、臨床推論などを学び、その知識を持って臨床実習を行います。2年間の間には研究論文の作成もことができました。

今後は、大学院で学んだ知識と経験を活かしながら、診療看護師として医療の質の向上に貢献していきたいです。

### OB Message

#### 質の高い『看護』を提供するため日々奮闘中



2016年度  
修了生

看護管理学領域  
修士論文コース

谷口 純平さん

大学院への進学は「看護」について考えるためでした。私は患者様へ実践している行為が本当に看護なのかという疑問を常に持っていました。そこで、もう一度看護について学びたいと思い進学を決めました。

大学院では、研究テーマの知識はもちろんのこと、専攻した「管理学」では、看護の質の向上やリスクマネジメントについてなど幅広い視点で看護を学習することが出来ました。また、形の無い看護を知ることは非常に難しいことですが、大学院という環境で自律性を持ち学べたことは大きな財産です。

現在私は、大学院での様々な学びを活かし、刻々と状況が変わる救急病棟で質の高い看護を提供するために日々奮闘しています。

# 愛知医科大学大学院

## 看護学研究科(修士課程)について

愛知医科大学大学院看護学研究科は、高度専門職業人にふさわしい看護実践者として、これからの看護研究・教育・管理に貢献できる人材を育成するために、2004年4月に開設しました。

その後、2007年度に感染看護学領域において専門看護師(CNS)コースを開設し、2015年10月には高度実践看護師(診療看護師)コースにおいて、特定行為研修制度の研修機関として厚生労働省から指定(38行為21区分)を受けるなど着実に発展を遂げ、更なる看護学の発展に寄与する人材の育成を行っています。

### 研究科長あいさつ



Message from the Dean

研究科長

坂本 真理子

Sakamoto Mariko

愛知医科大学大学院看護学研究科は、2004年の開設から14年が経過しました。これまで送り出した107名の修了生たちは、本研究科で培った知識や技術をもって全国各地の保健医療機関や教育機関などで活躍しています。

近年の大きく変化する社会情勢のもと、保健・医療・福祉のしくみも変わろうとしています。こうした変化の中で、自ずと看護職の役割や地域社会での活動場所も拡大し、多様化してきています。多くの看護職が今まさに、今日的な課題を実感しながら、悩み、実践に取り組んでおられると思います。

看護教育の高等化が急速に進み、実践家である看護職が大学院で学べる機会が増えてきました。本研究科では、実践家である皆さんが日常の看護実践で気になっている現象を紐解くことから始めます。自らの体験を語り、自分自身の考えを整理し、議論しあうプロセスを通じて、自分の研究テーマを精錬させ、新しい知を創造し、発信できるように研究を進めていきます。このプロセスは、経験知であった看護を可視化し、共有の財産である理論知としていくプロセスでもあります。

本研究科では夜間開講や長期履修制度等社会人が学びやすい教育環境を整えています。自らの可能性に挑戦し、共によりよい社会の創造に向けた看護学の追求に共に取り組んでみませんか。皆様のご入学を心からお待ちしております。

### ❖ 教育理念

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点から看護学を教授し、卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度実践看護者を育成するとともに、研究・教育を通して看護学の発展に寄与する。

### ❖ 教育目標

- 1 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 2 看護の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成する。
- 3 国際的視野を持って、看護・看護学を探究しつづける人材を育成する。
- 4 看護学の学問的発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。

### ❖ 学 位

看護現象に根ざした人間存在の原理的・統合的・全人的理解を基盤として、学際的・国際的な視点に基づく卓越した看護実践能力及び研究・教育・管理能力を身に着け、高度専門職者として優れた能力ないし教育・研究活動に貢献できる能力を修得した者に修士(看護学)の学位を授与する。

### ❖ 募集人員

15名



# 担当教員研究内容一覧

## 教育研究分野・専攻領域及びコース

教育研究分野	専攻領域	コース
基礎看護学	看護管理学	修士論文
母子看護学	母性看護学	
	小児看護学	
成人・老年看護学	慢性看護学	
	老年看護学	
精神・在宅・地域看護学	精神看護学	
	在宅看護学	
	地域看護学	
高度実践看護学	感染看護学	
		高度実践看護師(専門看護師[CNS])
	臨床実践看護学	高度実践看護師(診療看護師)

## 担当教員研究内容一覧

<p>慢性看護学領域</p> <p>高橋 佳子 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長期療養者のセルフマネジメント・スキル獲得への支援に関する研究</li> <li>● ICTを活用した遠隔看護に関する研究</li> </ul>	<p>感染看護学領域</p> <p>佐藤 ゆか 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 感染防止教育に関する研究</li> <li>● 感染管理, 感染防止ケア, 感染症患者の看護に関する研究</li> <li>● 感染防止における地域連携に関する研究</li> </ul>
<p>精神看護学領域</p> <p>多喜田 恵子 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 精神障害をもつ当事者・家族の支援に関する研究</li> <li>● 看護におけるグループアプローチに関する研究</li> <li>● 看護職者のメンタルヘルスに関する研究</li> </ul>	<p>臨床実践看護学領域</p> <p>小松 徹 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 周術期概日リズム</li> <li>● 麻酔と自律神経活動</li> <li>● 超音波ガイド下末梢神経ブロック</li> <li>● マルチモーダル鎮痛(麻酔)</li> </ul>
<p>地域看護学領域</p> <p>坂本 真理子 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティ・ヘルス・ワーカーの在日外国人支援における適応について</li> <li>● 多文化に対応する子どもと親のための健康教育ハンドブックの開発</li> <li>● 保健師の歴史に関する研究</li> </ul>	<p>臨床実践看護学領域</p> <p>西川 和裕 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己免疫性腎炎における病態の解明</li> <li>● 炎症性疾患における補体の関与</li> </ul>
<p>地域看護学</p> <p>若杉 里実 教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域看護活動に関する研究</li> <li>● 地域看護教育に関する研究</li> <li>● 保健師の人材育成に関する研究</li> </ul>	<p>臨床実践看護学領域</p> <p>山中 真 准教授</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 転倒外傷予防</li> <li>● 看護師の実践技術の量的評価</li> </ul>

# 環 境

## 昼夜開講制・長期履修制度

医療等の現場で活躍している看護師・保健師の方々が退職や休職することなく学べるよう、配慮しています。また、2015年度入学生からは職業を有している等の事情により、標準修業年限での履修が困難な学生を対象として、修業年限を超えて計画的に履修し、修了することができる「長期履修制度」を導入し、社会人の学びやすさを支援する体制を取っています。

### 社会人比率

2018年度入学者：15名中15名(100%)  
[長期履修制度を利用する学生:3名]  
2017年度入学者：12名中12名(100%)  
[長期履修制度を利用する学生:3名]  
2016年度入学者：13名中13名(100%)  
[長期履修制度を利用する学生:4名]



## 研究指導体制

本研究科における指導体制は、少人数で個別的な指導を行うことを旨としています。このため、初学者であっても確実に研究のプロセスを学習しつつ、論文を作成できる体制を取っています。

## 研究環境

### ● 院生用研究室

大学院学生には、研究活動等で利用するための研究室を整備しています。24時間利用可能で、パソコン、机、保管庫・ロッカーを設置しています。

### ● 総合学術情報センター(図書館部門)

医学・看護学及び関連分野の学術情報を収集・管理し、教育・研究・診療を支援する専門図書館があります。図書約10万冊、視聴覚資料約2,000点、学術雑誌約4,000タイトルを所蔵しており、学内外を問わずどこからでも所蔵状況を確認することができます。利用にあたっては、医療情報の専門家である図書館員が検索のコツや利用上の相談にも気軽に応じます。平日は22時まで利用できることに加え、毎週土曜日及び一部日曜日も開館しており、利便性の向上に努めています。

### ● 総合学術情報センター(情報基盤部門)

先進的な設備や最新のICT技術を導入し、学習支援環境の整備に積極的に力を注いでいます。課題解決(表分析、レポート作成等)などで、利用時間内であれば自由にパソコンが利用でき、操作支援やトラブルの対応には専門スタッフがサポートします。



## 特別講義

看護の展望や看護の探究心、知的好奇心を育成するとともに、看護職者としての意識の改革、看護に対する関心への動機付けを狙いとして、年に数回開講しています。



## 専門看護師、特定行為研修の教育課程を設置

本研究科では修士論文コースに加え、次の教育課程を設置しています。

### ● 専門看護師 (CNS) コース【感染看護学領域】

感染看護学領域は、専門看護師教育機関として認定を受けており、修了者は公益社団法人日本看護協会が実施する専門看護師認定審査(感染症看護)の受験資格が得られます。

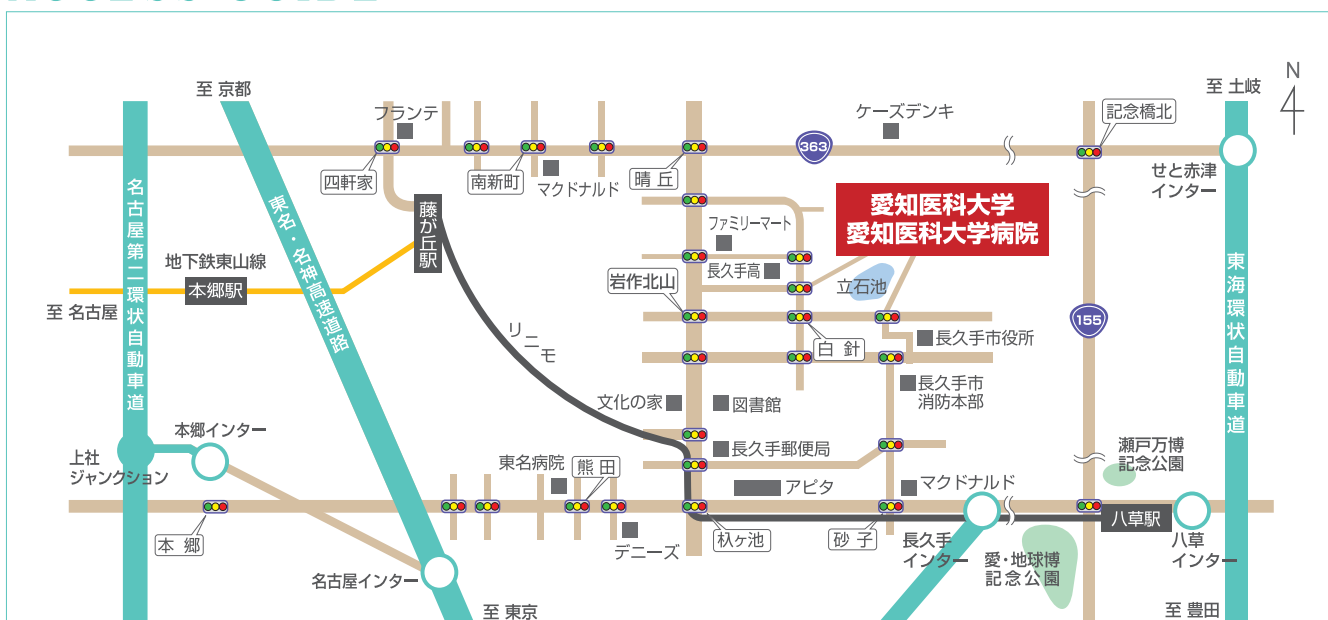
### ● 診療看護師コース【臨床実践看護学領域】

高度実践看護師(診療看護師)コース修了後は、特定行為研修修了者として厚生労働省に報告します。また、一般社団法人日本NP教育大学院協議会が実施する「NP資格認定試験(プライマリケア・クリティカル領域)」の受験資格が得られます。

※本コースは昼夜開講となります。



## ACCESS GUIDE



### ■ 幹線道路から

- ① 東名・名神高速道路・名古屋インターから車で約15分、長久手インターから車で約10分
- ② 名古屋第二環状自動車道・本郷インターから車で約15分
- ③ 東海環状自動車道・せと赤津インターから車で約30分

### ■ 公共交通機関

名古屋駅から地下鉄東山線で「藤が丘」駅まで25分、地下鉄東山線「藤が丘」駅から名鉄バスで約15分

\*詳細はホームページをご確認ください。

【お問い合わせ先】

## 愛知医科大学看護学部教学課大学院係

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
TEL: 0561-62-3311(代表) 〈直通〉TEL: 0561-61-1827 FAX: 0561-63-1093  
E-mail: [gakumu@aichi-med-u.ac.jp](mailto:gakumu@aichi-med-u.ac.jp)  
URL: <http://www.aichi-med-u.ac.jp>

